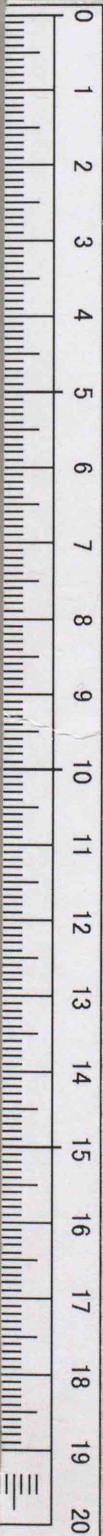
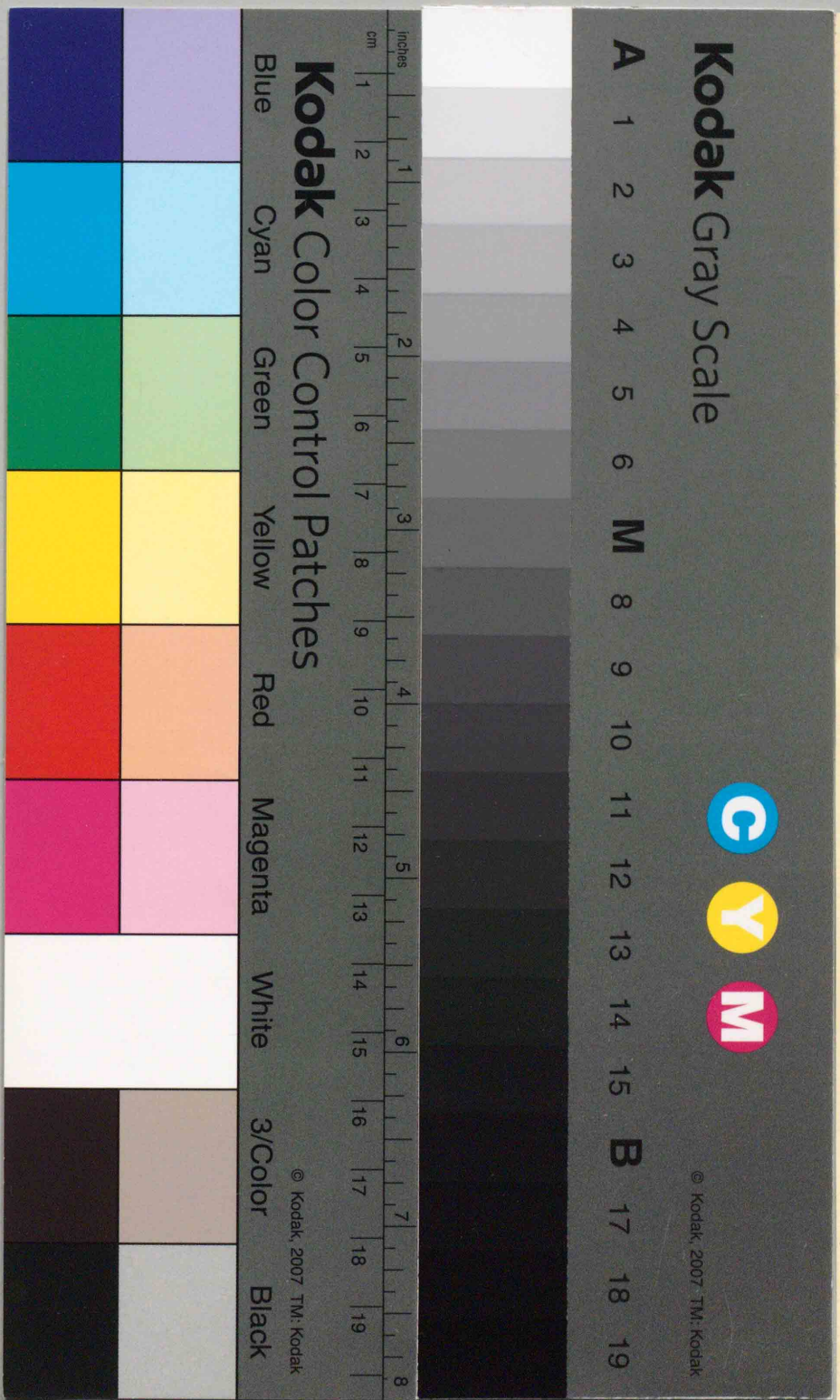


女學唱歌
壹

教科書文庫
4
760
52-1902
0130449458



30481
教科書文庫
34
760
52
42-1902
01304
49458



教科書文庫
4
760
52-1902
0130449458



中央図書館

明治三十五年三月十日

文部省検定済

女學唱歌

壹

山田源一郎編



合資
會社
共益商社書店藏版

広島大学図書

0130449458



音楽を普通教育の一要素と認め唱歌を学校の課程に加へられしはつひ近き頃の事と思ひしにはや二十餘りの星霜を経ぬ其他幾多の變遷なきにあらざけしが特に當時女學生の唱歌には古調の律旋もてものせる歌曲多かりけるをいつしか新調の歌風に移れるはいと著じるしき現象にあらずとやいはんこはもと時勢の然らしむる所とはいへ斯道の爲に盡されたる人々の力によれること多きは云ふまでもなかるべし此度山田君のものせられたる唱歌集はここさらに西洋諸名家の作曲のみを集めまゝ君が作曲をも交へられたり聞く斯くてこそ教育の理法を唱歌に應用し易より難に入り簡より繁に進むの順序を誤らず將來一般女學生の音楽の趣味をも一

広島大学図書

0130449458



變して優秀の氣品を養成するを得ん山田君は最も早く新音樂の門に入りたる人にして久しく東京音樂學校にまた女子高等師範學校に樂鞭を執れる人なれば其選曲の能く當を得て音樂教育に裨益を與へんこそ余の信じて疑はざる所なり

明治三十三年七月二十八日酒匂郵絃海書屋にて

伊澤修二 しろす

緒言

一本書ハ専ラ女子師範學校高等女學校其他之ト同一程度ノ女學校教科用トシテ適當ナル材料ヲ供給スル目的ヲ以テ編纂シタルモノナリ
一本書中ノ歌詞ハ總テ本邦名家ノ手ニ成リ其樂譜ハ編者ノ作ヲ除クノ外悉ク泰西名家ノ作ニ係ルモノ若クハ國風曲等ニシテ歌想樂想共ニ主トシテ本邦女子ノ性情ニ恰好ナルモノヲ選擇セリ

一本書中ノ歌曲ハ之ヲ單音複音及三重音ノ三種ニ類別シ各種ニ就キ畧ボ難易ノ順序ニ依リテ配當セリ但シ實際教授上ノ便宜ニ依リ多少ノ異動ヲ行フハ教授者ノ任意ナリトス

明治三十三年八月
編者誌

女學唱歌第一集

目次

- 一 忍ぶのころも
- 一 鶯告春
- 一 歡迎の歌
- 一 雪
- 一 つみくさ
- 一 愛國
- 一 園生の春
- 一 四季の詠
- 一 小鳥
- 一 卒業式の歌
- 一 落花
- 一 川のながれ
- 一 つれづれ
- 一 富貴の花
- 一 女のかぐみ
- 一 たのし我屋
- 一 夏の曙
- 一 潮干狩
- 一 隅田川
- 一 紅葉狩



忍ぶのころも

○忍ぶのころも

一 シノアノコロモヲソノミーニマトヘ
二 しのぶのなぐさをこころにうるよ

ニシキニマサルハシノアノコロモ
はなにもまざるはしのぶのなぐさ

裡山 ○忍のころも
三輪義方作歌
山田源一郎作曲

その身にまごへ。

錦にまざるは、
忍ぶのころも。

忍ぶのをぐさを、
こころにうるよ。

花にもまざるは、
忍ぶの小艸

附録

- 一 寫眞
- 一 輪唱
- 一 秋の夜
- 一 琴の音
- 一 秋漁
- 一 旅の暮
- 一 集會
- 一 懷友
- 一 たそがれ
- 一 櫻狩
- 一 祝歌
- 一 新年

- 一 花紅葉
- 一 兄弟
- 一 夜學
- 一 四季のあはれ
- 以上



鶯 告 春



一、ノザハノコホリトケツメテ一
二、いつしかゆきもきえはてて一



ウララカクサヤモエヌラ一
のきばのうめぞかをるなる一



ハルクツケルウケヒス一ノ
なくうぐひすのこゑより一



コエノスエコソカスムナレ一
のやまもはるやしりねらん一

○鶯告春

一、野澤の氷のざはけそめて。

うら若草わかぐさやもえぬらん。

春はる來くご告つこる、うぐひすの。

こゑの末すえこそ、かすむなれ

二、いつしか雪ゆきも、消きえはて。

軒端のきばの梅うめぞ、かをるなる

なくうぐひすの聲こゑよりや。

野山も春や、知りぬらん。

歓迎の歌

キケヨ モリヲ ナチコチニ サヘヅルコトリノ
 ナクコエヲ ウレシキシーラメタノシキホ
 トモヲムカヘテヨロコビノ ココロヤソトニ
 アフルラ ムキタレヤキタレイザトモヨ
 ヲレモリタハムモロトモニ

徳井輝

春 吉 鶯

心こころや外ととにあふるらむ。
 来きたれや来きたれいさ友ともよ。
 われもうたはむもろこもに。

嬉うれしきしらべ樂たのしき音ね。
 友ともをむかへてよろこびの。

聞きけよ森もりのをちこちに。
 さゑづる小鳥こどりのなくこゑを

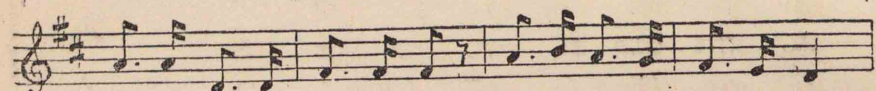
○歓迎の歌

山田源一郎作曲

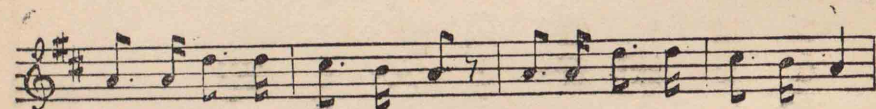
雪



一、イタヤノノキニ フリクルオトハ
二、をざさのうへに くだくるたまは



シグレカエキカ コノハカアメカ
あられかゆきか はるさくはなカ



キエズニトマレ カキネノマツニ
とけずにのこれ かれふのしばに



ワガマツウメノ一ツボミノゴトク
がてふのはれのいちりくるごとく

○雪

一、板屋の軒に降りくる音は。

時雨か雪か木の葉か雨か

消えずにこまれ垣根の松に。

わが待つ梅のつぼみの如く。

二、小笹のうへにくだる玉は。

霰か雪か春さく花か。

解けずに残れ枯生の芝に、

鵝鳥の羽ねの散りくる如く。

大和田建樹作歌

つみくさ

一、ノヤーマチーオホフサラーラノクモ
 二、うちつれかへるはるののはら

ミソーラニヒビクセバリンノサタ
 しやっちはなしかいしとのこふ

ツミークサーイツーゲサートメノトモ
 がごなるはなのそーのなはなは

タンボーボヨメナヨモギニセリ
 すみれになづななだれにれんげ

○つみくさ

一、野山をおはふ櫻の雲。

みそらにひく雲雀のうた。

つみくさいそげ少女の友。

たんぼぼ嫁菜よもぎに芹。

二、うちつれかへる春野の原。

唱歌はたしか妹の歌。

籠なる花の其名はなに。

すみれになづな菜たねにれんげ。

大和田建樹作歌

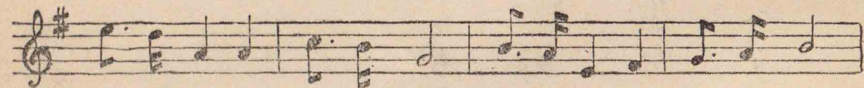
愛 國



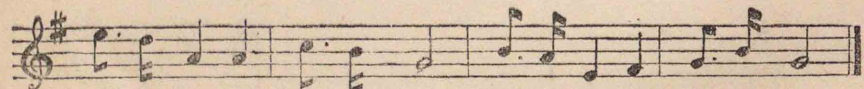
一、ナ マ ト ゴ コー ロ ナ イ ヤ フ リ ガー コ シ
二、か み よ な が ー ら の わ が ひ の も ー と は



チ ト コ チ ミー ナ モ ミ ナ モ ロ ト ー モ ニ
と つ く に びー と も か し こ み あ ふ ぐ



ミ ク ニ チ マ モ レ イ ノ チ ニ カ ケ テ
ま も れ よ ま も れ い の ち に か け て



ミ ク ニ チ マ モ レ イ ノ チ ニ カ ケ テ
ま も れ よ ま も れ い の ち に か け て

○愛 國

一、大和心をいやりおこし

男をみなもみなもろこもに。

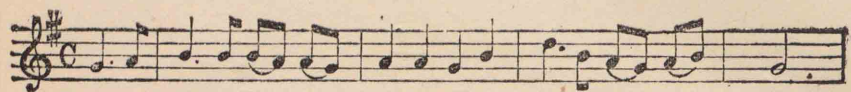
皇國を守れ命にかけて

二、神代ながらの我日の本は。

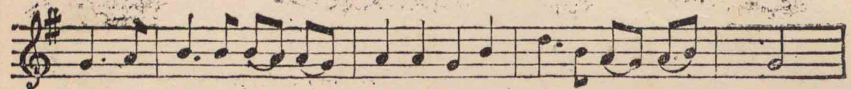
外國人もかしこみあふぐ。

守れよまもれ命にかけて。

園生の春



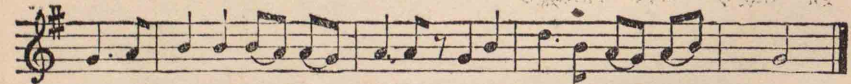
ハルカセフーキー キテミソ ラモカースー



カグ ヒスキーナー キテサク ラモサーキー



イザトモキーター レヤソノ フチメーゲーヲ



トヨサヘハナー サヘウキタツモノ

○園生の春

○園生の春

春かぜ吹き来て、みそらも霞み。

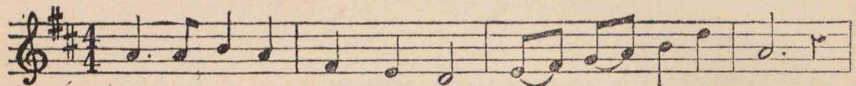
うぐひす來鳴きてさくらは咲きぬ。

いざごもきたれや、園生をめぐらむ。

鳥さへ花さへうきたつものを。

武島又次郎作歌
アルン作曲

四季の詠



一 カ ス ミ ニ ト ザ シ シー パー ノ ト ニ
 二 さ み だ れ は れ し ゆー ふー ま ぐ れ
 三 キ ク ノ サ カ リ ニ ナー リー ヌ レ バ
 四 ゆ き よ り し ら む あー さー ぼ ら け



ヒ ト ク ト ツ ア ル ウー ガー ヒ ス ハ
 つ き や い か に と なー がー む れ ば
 ロ ガ ソ テ サ ヘ モ ニー ホー フ ナ リ
 と や ま の い ほ に たー つー け ぶ り



ハ カ ル ト シ レ ド ハ カ ラー レー テ
 の き の あ や め に た ま なー せー る
 オ ホ シ タ テ シ ア サ ヨー ヒー ノ
 こ ろ も で う す き し づ の なー が



ウ レ シ キ ハ ル ト ズ ウー ター ヒ ケ ル
 な ゴ リ の つ ゆ もー かー をー る な リ
 ツ ヌ ノ メ ア ヲ ミ ズー シー ラー レ ケ
 よ わ た る わ ざ こー あー はー れ な

○四季の詠

山田源一郎作曲

一、霞にさぢし、柴の戸に人來と告る、うぐひすは。
 はかるさしれご、はかられて。嬉しき春こそ、うたひける。
 二、さみだれ晴し夕間くれ月やいかにながむれば。
 軒のあやめに、玉なせる。なごりの露も、かをるなり。
 三、菊の盛になりぬれば。我袖さへも、匂ふなり。
 おほしたてし、朝宵のつゆのめぐみぞ、知られける。
 四、雪よりしらむ朝ぼらけ。外山のいほに、たつけぶり。
 衣手うすき、しづの男が。世わたる業こそ、あはれなれ。

小 鳥



一、ツノフノシバ—フニフサレルコトリ
 二、あれあれやな—ぎにまたまつがえに



ノドケキヒカゲ—ニワカレ—ヤスラン
 おはれつおひつ—ついとむ—つましく



ア—レ—アレカ—ガ—ヒコト—モ—ロビカハス
 と—リ—ずらと—も—とほし—た—しむものを

○小 鳥

一、園生の芝生に、あされる小鳥。

中村秋香作歌

のどけき日影に、うかれやすらん。

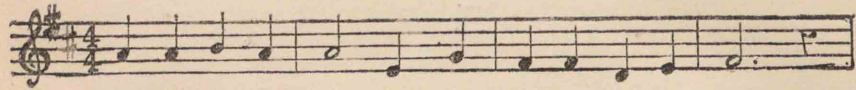
あれくたがひに、友呼びかはす。」

二、あれく柳に、また松が枝に。

おはれつおひつ、いとむつましく。

鳥すら友とは親しむものを。」

卒業式の歌



一、ア シ タ ニ ロ ク ル ミ チ シ バ モ
 二、は 一 な の さ が り も よ そ に き き
 三、チ シ ヘ ノ ソ ノ ニ オ ロ タ チ シ



ニ フ ベ ニ ハ ラ フ コ ト ノ ハ モ
 つ ー き の ま と め に そ む き つ つ
 ロ カ キ ノ ウ メ ノ ケ フ ヨ リ ハ



ニ キ ト ホ タ ル ノ ヒ カ リ ニ テ
 つ と め い そ し む は る あ き の
 キ ヨ キ ミ サ チ ノ イ ク ハ ル モ



カ ガ ヤ ク ケ フ ー ノ ム シ ロ カ ナ
 つ が き ひ は ふ ー み の ひ か リ が な
 ヨ ー モ ニ カ チ ラ ム ハ ナ ノ カ ハ

○卒業式の歌

山田源一郎作歌

一、朝にわくる、みちしばも、
 夕にはらふ、言の葉も。
 雪と螢の光にて。
 かゞやく今日の、むしろかな。

二、花の盛も、よそにきつ。
 月のまごゐに、そむきつ。
 つこめいそしむ、春秋の。
 月日はふみの光かな。

三、教の園に生ひ立ちし。
 わかきの梅の、今日よりは。
 清きみさをの、幾春も。
 四方にかをらん、花の香は。

落花



一、ハ　ラ　ラ　ラ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
二、か　る　か　る　し　は　ふ　に　ゆ　き　は　み　ち　ね
三、イ　イ　イ　イ　イ　イ　イ　イ　イ　イ　イ



ユ　フ　ハ　ノ　ア　ラ　レ　カ　ア　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
ユ　キ　の　ふ　の　さ　か　り　も　け　ふ　は　ゆ　か　き　か
ト　マ　ニ　マ　ラ　ラ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

○落花

大和田建樹作歌

一、ひらくちりくる花のさまは、

ゆふべの霞か朝の雪か。

二、みるく芝生に雪はみちぬ。

きのふの盛も今日は夢よ。

三、いざぐひろひて籠に入れて。

友にもおくらん春のかたみ。

川のながれ



一、ア - シアミト フロニチドリユークーハ
二、わ - がゆくま なびのみちもこーれーぞ



コ - コロモタ ノシキミ ヅノターピーダ
キ - のふのふもとほけふのたーがーれ



コ ノハニムセピシコ エハキノーフ
か づらにーすーがりつ いしによーちーつ



ク - フコソユータケキカ ハニウーミーユ
つ - ひにはーやーへだつくものうーへーに

○川のながれ

大和田建樹作歌

一、足^{あし}ふみこころに躍^{をど}りゆくは。

心^{こころ}もたのしき水^{みづ}の旅^{たび}路^ぢ。

木^きの葉^はに咽^{せむ}びし聲^{こゑ}は昨^{きの}日^ふ。

今^け日^ふこそゆたけき河^{かは}に海^{うみ}に。

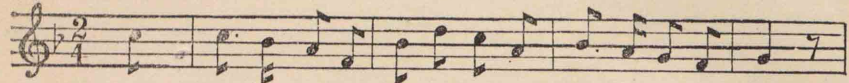
二、わがゆく學^{まなび}の道^{みち}もこれぞ。

き^きのふの麓^{ふもと}は、今^け日^ふの高^{たか}嶺^ね。

かづらにすがりつ石^{いし}によちつ。

つひには八^や重^へだつ雲^{くも}の上^{うへ}に。

つれづれ



一、オ　モ　ハ　メ　カ　タ　ニ　モ　ユ　カ　シ　キ　モ　ノ
 二、こ　ころ　に　な　く　と　も　わ　び　し　き　も　の



ハ　ー　ル　ノ　ツ　レ　ヅ　レ　ミ　ー　ミ　ニ　フ　ト　イ　ル
 あ　ー　き　の　つ　れ　づ　れ　こ　ー　す　る　ゆ　ふ　つ　く



ヨ　ー　ソ　ノ　コ　ト　ノ　ネ
 て　ー　ら　の　か　ね　の　ね

つれづれ

一、思はぬかたにも懐しきもの。

はるのつれづれ。

みゝにふさいる他家の琴の音。

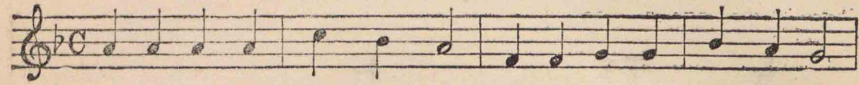
二、意になくともわびしきもの。

あきの徒然。

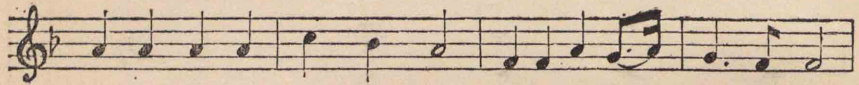
こずるゆふづく寺の鐘の音。

旗野十一郎作歌
 ボーマン作曲

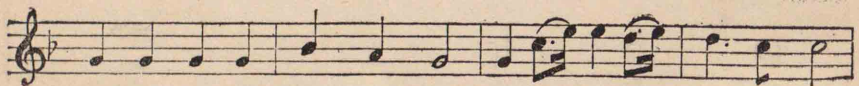
富貴の花



一、ア テ ナ ル サ マ ヤ ソ ノ フ ノ ホ ム シ
 二、オ オ シ キ イ ル ヤ ミ ギ は の は ち ず
 三、カ ク レ ガ フ カ ク チ ト セ ノ ア キ チ



フ ヲ キ ノ ハ ナ ト ヲ ベ コ ソ ー イ ヘ レ
 か を リ も き よ し つ ゆ さ へ ー き よ し
 シ ヅ カ ニ ガ ク ル シ ラ ギ ク ー ア ハ レ



ニ ホ ヘ ル イ ロ ハ ニ シ ー キ チ ー ヲ ソ ヒ
 な つ な ほ ふ れ る ゆ き ー か と ー ま が ひ
 ニ フ ベ ノ キ リ ニ ヒ カ ー リ チ ー ツ ツ ミ



カ カ レ ル ツ ニ ハ ー タ マ チ ソ ー カ ザ ル
 ひ る さ へ つ き の ー お も か げ ー か ぶ
 ア シ タ ノ カ ゼ ニ ー カ チ リ チ ー モ ラ ス

○富貴の花

○富貴の花

三輪義方作歌

一、あてなるさまや、園生のぼたん。

ふうきの花ごうべこそいへれ。

句へるいろは錦をよそひ。

かゝれる露は玉をぞかざる。

二、すすきいろや、みぎはのはちす。

かをりもきよし露さへきよし。

夏なほふれる雪かごまがひ。

三、かくれがふかく月のおもかげうかぶ。

しづかにおくる白菊あはれ。

あしたの露に、光をつゝみ。

あしたの風にかをりをもらす。

女のかがみ



○女のかがみ(紫式部)

三輪義方作歌

おもへばゆかしきををしへのたね。

たゞしきをみなのかがみごみん。

千歳ちとせの後のちまでむらさき匂へる言葉ことばのいろ。

おこなふくひなに、閨ひなの戸とゆるさぬ、ころのふし。

たのし我屋



一、ク キギセーガーヒクルター ニノホーソーミーチ
二、み ちのさーわーらびはあーすにのーこーしーて



ア ラシミーニシミテエーフヒカークーレヌ
ホ、れしたーにーがほのはーしをわーたーれば



タノシワーガヤハ コノマニミエタリ
うれしわーがやは ちかくにきたれり



ノ キノイトーヤナギカーセニナービキテ
に はのはーなーいばらかーぜにかーをりて

○たのし我屋

一、薪たきせおびくる谷たにの細ほそ道みち。

嵐あらし身みにしみて夕ゆふ日ひかくれぬ。

たのし我屋わがやは木この間まに見みえたり。

軒のきの糸いと柳やなぎかぜになびきて。

二、道みちの早さ蕨わらびはあすに残のこして。

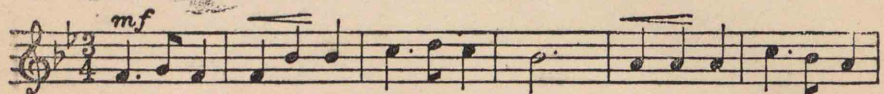
なれし谷川たにかはの橋はしをわたれば。

うれし我屋わがやは近ちかくに來きたれり。

庭はなの花はないばら、風かぜにかをりて。

大和田建樹作歌

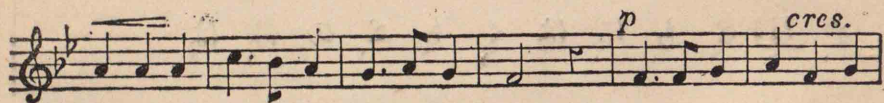
夏の曙



一、ツキハソラニノヨリテシラミワタル
二、よはのほたるみつよつともしのこる



ヤマノハクモノイロモスズシク
すずしさたかきもりのうへには



マツノカズモミエタリミヨヤノベノ
せみのこゑもきえぬおきてふりや



ナデシカコツユニメルルエガホヲ
あさつゆにこちよきはこのとき

○夏の曙

一、月はそらにのこりて。

雲のいろもすしく、

松のかずも見えたり。

みよや野邊のなでしこ、

露にぬるゝ笑顔。

夜半のほたる三つ四つ、

二、

高き森のうへには

蝉の聲もきこえぬ。

おきてふめや朝露

こちよきは此時。

大和田建樹作曲
シル

潮 干 狩

Allegretto.



一。フ キ ク ルー カー セ ニ ハ シ ホー ケー カー テー リ
二。 は な り のー かー み に は ひ かー げー にー ほー ひ



ハ ル ケ キー ウー ミ ニ ハ ミ ドー リー シ キ テ
こ ぞ め のー たー す き に し るー きー か ひ な



ヒ カ タ モ ヒ トー ノ カ ナ サ ヘ サー ク
つ つ み し う たー も げ ふ に は はー れ



カ タ マ コ ナ ケ ヨ ト テ テ ニ サ ゲ ツ ツ
き み よ わ ら は よ と と も に さ ざ め き



シ ラ ヌ モ シ ル モ ヨ バ レ ツ ヨ ビー ツ
は ま ぐ り あ さ り と り ど り あ そー び



エ ミ ゴ エ タ カ ク ウ チ ム レ ユ ク
こ し か ひ あ り と み な よ る こ ぶ

○潮 干 狩

二
一
來 蛤 君 慎 緋 放 笑 し 籠 干 遙 吹
し よ 秘 染 下 ぬ 小 湯 け き 吹
か わ し の の 聲 ぬ 小 湯 け き くる
ひ 文 ら は 唱 の 髪 高 知 る も 海 風
あ り は よ 歌 た す き に は く も の は
こ 具 こ も に は く も の は

み ころ け し 日 う よ 手 花 緑 潮
な り も ふ ろ 影 あ ば 々 花 緑 潮
よ く に は か ひ ほ 行 び つ へ 咲 気
ろ あ 喧 は 公 ひ ほ 行 び つ へ 咲 気
こ そ 騒 め 公 ひ ほ 行 び つ へ 咲 気
ぶ び き 然 な ひ 行 び つ へ 咲 気

旗野十郎作歌
エングエル作曲

隅田川



一 ツ ツミノーヤー ナギニヨ ノイローノー コシテ
二 ま たゆふーすー すみにつ きみにーむー しきき



ハー ナヨリーアー ケユクア ケボノーノー ケシキ
いー づれのーとー きはかお むかしーかー らざる



ミ ギハノーアー シーマーニフ ネーノーリーハー ナチテ
い さこのーあー たーリーにい ほーリーをーむー すびて



ユ キーフーミーワケーモクユ フクレノー ナガメ
わ がーよーのーかーぎーリーをす みだのーかー はぎし

隅田川

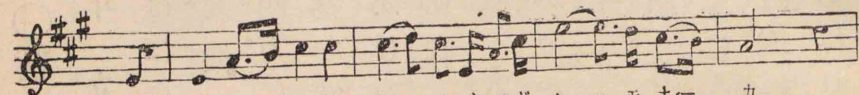
中村秋香作歌

| | | | | | |
|----------|-----------|----------|-----------|----------|----------|
| 二 | また夕すゝみに、 | 雪ふみ分けゆく、 | 汀のあしまに、 | 花より明けゆく、 | 一 堤の柳に、 |
| いづれの時にか、 | いざこのあたりに、 | わが世の限りを、 | おむかしからざる。 | 月見にむしき。 | 船のりはなちて。 |
| あけぼのけしき。 | ゆふぐれのながめ。 | 夜の色残して。 | すみだの川岸。 | 庵を結びて。 | |

紅葉狩



一、オ クヤーマハ ヤーマ ツ エロクートー コロ
二、い はまーのし みーづ い ざわれーくーまむ



イ ツコーモア キーノイロドルーモナーカ
ニ、かげーにむ しーろいざわれーしかーむ



サ クラーナラ ネード ミ テノミヒトーニ
それよーこれよーと か たみにさわーぐ



カ タラーマシヤーマ エダノモミーヤ
わ ざぞーたのしーき あき のあそーび



チ ラバーチルベーシ チラヌモークーヤシ
お ちばーかきよーせ ふきたくーのーびに



ク アハーチギヌーニソメーテカヘラム
か ほもーもみぢーのいるーぞーにほへる

○紅葉狩

○紅葉狩

二 一
顔落所そ木ニ巖今を語さいお
も葉爲れ蔭間日はらくづく
もかぞよにのの清巾あるべしは
みきたのれしよろ水に、は、
ちよのせ、き、ろ、水、に、は、
の、せ、き、ろ、水、に、は、

色吹秋互い染を枝見杖
ぞきたにざざめらてろひ
たののされれ歸かぬののざくへ
句く野のわ敷し酌へく紅人最こ
へ火に遊ぐむむむし。葉に中。ろ
る。に。遊。ぐ。む。む。む。し。葉。に。中。ろ。

旗野十一郎作曲

新年

二トシ タツ アシ ターノ フク カーゼー キヨ ミ
 二わが おほ みく にーの がし こーきー みい つ

ハレガ ニハキワタ ヲーヤ ヤーヘーノーサギ リ
 カガ ヤキワタ レーあ あさ ひーのーみほ た

ミロ タスカギ リーハ ソラ スミ ロタ リ
 とし たつ あし たーの どり き がぜ に

ヨモ ニカガヤクニヤアサ ヒーノニミハ タ
 うち の たみ くーさ なび きーやーすら む

ミカガチシタ ヒーテヨリ クルクニ グーニ
 そら にはよび かーふ あし たづのーこーえ

アハレ アナーメーテ タア ハレタノ シ
 のペ にはたーなーび くか すみーのそ で

モサガユ ルーヤクニ モサガユ ルーヤ
 あは れめでた しーやあは れおもし るーや

○新

年

○新年

一 年立つ朝の
 はれにはれたりや
 見渡すかぎりは
 四方にかやくや
 みかげをしたひて
 あはれあなめでた
 御代も榮ゆるや
 我大御國の
 かやきわたれる
 年立ちあしたる
 内外の民草
 空にはよびかふ
 野邊にはたなびく
 あはれめでたしや

吹風きよみ
 八重のさきり
 空すみわたる
 あさひのみは
 よりくるる國々
 あはれたのし
 國もさかゆるや
 かしこきみいづ
 朝日御旗
 のごげきかせに
 なびきやすらむ
 あしたづのこゑ
 かすみのこゑ
 あはれ面の白
 や袖

祝 歌

メソノベモカスミワタリ
 ハナワラヒトリウタフキミガヨノハルノヒニ
 カツラチチーリーエシワガトモノソノクワウエイ
 カモヘバソノノミノクワウエイノミーカ
 ミヨノヒカリミクニノサカ
 ハナモトリモイハヘヤイハヘア
 アアアアパンパンザイ

四十三

○祝 歌

○祝 歌

萬歲々々々々々々々々々々
 花御おも桂君花山
 あも代へば折がわ邊
 鳥のその身え代ら野
 も光のしひも
 萬祝御光我春鳥か
 へや國榮友のうす
 々いののみ其そ日た
 はみ光くわにふり
 歳へ榮か榮に。

三輪義一方作曲

四十二

櫻 狩

Moderato.

三ハニルノヒカカゲノドカナナリ
三みれのきくらさきにいけり

ハニルノヒヨリウララナリ
たにのきくらきにいけり

cres.
ハニルノヤマベマツリナニ
こまはつなぐふもとち

cres.
ヤマノサイクヘサキニレム
まのいくへいはれふ

p
イクアコマニクヘワケサテ
くもこのまにへわすて

cres. f rit.
イザヤユカムサクハカ
はなまよふはるのひ

p a tempo.
ワガココロイサムナリノドカナリヤハル
わがこころいさむなりのどかなりやはる

mf cres. f
ノリゴマモイサムナリウララナリヤハル
のりごまもいさむなりうららなりやはる

○櫻 狩

二

雲の幾重分け捨て、
乗駒も勇むなり。
我が心勇むなり。
融々なりや春日。

峰の櫻咲きにけり。
乗駒も勇むなり。
我が心勇むなり。
融々なりや春日。

谷の櫻咲きにけり。
乗駒も勇むなり。
我が心勇むなり。
融々なりや春日。

一

春の日影長閑なり。
春の日和融々なり。
春の日和融々なり。
春の日和融々なり。

春の山邊交りなむ。
山の櫻咲きぬらむ。
山の櫻咲きぬらむ。
山の櫻咲きぬらむ。

いでや駒に鞍置けよ。
率や行かむ櫻狩。
率や行かむ櫻狩。
率や行かむ櫻狩。

我が心勇むなり。
長閑なりや春日。
長閑なりや春日。
長閑なりや春日。

鳥居 忱作歌

たそがれ

Handwritten musical score for 'たそがれ' (Twilight). The score is written on two staves in G major (one sharp) and 4/4 time. The first staff begins with a piano (p) dynamic marking. The lyrics are written below the notes in three lines. The second staff continues the melody and includes a '二重の鐘' (Double Bell) section. The lyrics for the second staff are also provided.

一、コガネノナミカトナガメシクモハ
 二、はるかにかきこゆるのでらのかれに
 三、ナニストシモナク△ナシククレヌ

二重の鐘 同奏

ミルミルハカナクイロアセユキア
 たぐひてよせぬねゆふべのいろは
 四、がヨもつひには、かゝりやすらん。

二重の鐘 同奏

○たそがれ

中村秋香作曲
 ウエーベル作曲

- 一 黄金の波かきながめしくもは。
 見るくはかなく色あせゆきて。
- 二 はるかに聞ゆる野寺の鐘に。
 たぐひてよせ来ぬゆふべのいろは。
- 三 なにすこしもなくむなしく暮れぬ。
 わがよもつひには、かゝりやすらん。

懐 友

Moderato.

一 コノメモハルノハナサクニハ
二 もみぢもあきのつきてるには

ナカメニワカアホモヒハナニ
ながめにうかぶおもひはなに

ムツビシトモトワタヨミカーハシ
めでにしひとかたらひながら

アヒミシイローアアコノイロー
あひみしがげあこのか

○懐 友

旗野十一郎作曲
シルヘル作曲

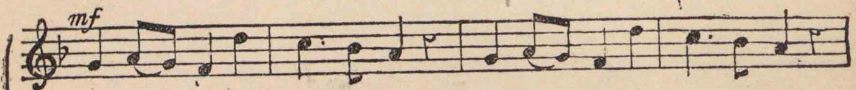
一 この芽もはるの、花さくには。
眺にうかぶ、おもひはなに。
むつびし友ご歌よみかはし。
あひ見し色あゝこのいろ。

二 もみぢもあきの、月照る庭。
ながめに浮ぶおもひはなに。
愛にし人ご語合ひながら。
あひみし影あゝこのかけ。」

集 會



一、ア ナ オ モ シ ロ ノ ケ フ ノ △ シー ロ
二、む かし を し の び い ま を が た ー リ



ア ナー コ コ ロ ユ ク コ ノー ロ ノ マ ト #
た がー ひ に つ ゆ も こ こー ろ を お が す



ア ナー コ コ ロ ユ ク コ ノー マ トー #
た がー ひ に つ ゆ も こ こー ろ を お が す



オ モ フ ト モー ド チ ソ ア カ イ ツ レー ア
お も ふ こ とー ど も い ひ が は し つー つ

○集 會

一、あな おもしろの、今日けふのむしろ。

あなこゝろゆく、このひのまごゐ。

おもふ友ともごち袖そでかいつれて。」

二、昔むかしをしのび、いまをかたり。

たがひにつゆも心こころをおかず。

思おもふことごとくも言いひかはしつゝ。」

中村 秋 香 作 歌
ダンベル ト 作曲

旅の暮

ユ フ ベ ノ ソー ラ キー リ タ テ コー メ
ト ヲ タ ル カー リ コー エ モ サ ビー シ

コー ロ シ ナ ト シー ツー キ ナ レ ニ シー フー ルー サート

コー ノー ヲ キー ヲ コー ナ ノ ナ ガ チ

○旅の暮

三輪義方作歌

ゆふべの空そらきりたちこめ。

こわたるかりこゑもさびし。

戀こゝろしやごし月つきなれにじふるさと。

ものうきはひなのながぢ。

秋 漁

Andante.

一、イ リ ヒ ナ ミ ニ コ ガー ネ ノー コ シ
二、い そ わ の を ふ れ お きー に すー す み

ク ロ ミ シ ソ ラ ヘ カ ヘー ル ミー サ ゴ
ナ ぼ る あ ま の さ まー ぞ さー わ ぐ

cres. *dim.*

ミー ギ ハ ノ ア シー ニ ノー ホ ル カ ニー ノ
かー た わ れ づ きー の ひー が し や まー に

pp

イ マー アー ロー フー ク シー ホ ド キ
まー だ のー ぼー らー む うー ち と ヤ

○秋 漁

旗野十一郎作歌

一 いたり日はなみ夜、黄金のこし。
黯然そらへ、かへる鶺鴒。
みぎはの芦に、のぼる蟹の。
いま泡ふく、満潮時。

二 磯回のを船おきにすゝみ。
すなごる海人の状ぞ騒忙。
片割月のひがし山に。
まだ昇らぬ間こや。

琴の音



一 マツカセカヨアラシカアハレアノコ
二 ナツむしかまつむしかとほきあの一



エーハツキシロシカセキヨシタ
る一はつゆさむくまもふけぬあ



カキコトノシラベイヅクヨリカヒビク
やしふえのしちべかどのかたにひびく

○琴の音

一 松風か夜あらしか。あはれあの聲は。

月しろし風きよし。

たかき琴のしらべ。

いづくよりかひびく。

二 鈴蟲か松むしか。さほきあのこゑは。

露さむく夜もふけぬ。

あやし笛のしらべ。

門のかたにひびく。

大和田建樹作歌
メンデルソーン作曲

○秋の夜

中村秋香
作曲

一、秋風さむくなりゆくまゝに。

よるこそここに、いごをかしけれ。
まがきのもごに、なくむしのころ。

干草の露に、やごれる月かけ。

あなあはれ、あはれ。」

二、燈火かゝげ、机によれば

月こそてらせ、よむ書の上を。

琴引きよせて、手にまさぐれば。

こほろぎなけり、琴柱のほごりに。

あなあはれ、あはれ。」

秋の夜

二、アキカゼサムクナリニクマニ
二、アトカシビサカクナリニクマニ

ヨルキコソトニイートチカシケレ
ツキコソトニイートチカシケレ

マカギノモトニナクムシノコレエ
ニギハヤヒノモトニナクムシノコレエ

チカカハニサるノギツナニユケニリ
チカカハニサるノギツナニユケニリ

チニドレチルツキとカリダ
チニドレチルツキとカリダ

アナアハレハレアハレニレ
アナアハレハレアハレニレ

附 録

輪 唱

中村 秋香作歌

○寫 眞

- 一、 ゆかしきおもわ、 さやけきこわね。
たゞみるごこく、 聞くこゝちせり。
- 二、 わがふるさは、 ちさこのかなた。
五百重の雲は、 たちへだつれど。
- 三、 今このかたに、 向へばやがて。
手をこりかはし、 あふこゝちしぬ。

- 四、 うれしのかたや、 このかたこそは。
あけくれさらぬ、 わが窓のとも。

○花 紅葉

- 一、 ゆきて見ばや、 さける、 山の、 櫻の花。
- 二、 いざや、 おもふごちよ、 時は、 たがひやすし。
サあめ風に、 うつろはぬ、 ひまに。
- 三、 ゆきてめでん、 にほふ、 のべの、 もみぢの色。
サこれかれを、 いざなひて、 いざや。
- 四、 いざや、 おぼしたてよ、 時は、 人をまたず。

サつゆしもに、ちりそめぬ、ほごに。

○兄弟

一、わが父母が、身體を分かちし。

わが身はやがても、わがはらからの身。

二、わがはらからも、又ち、は、より。

身體を分かちて、生れし身なれば。

三、さてこそわれは、やがてもはらから。

はらからやがても、ち、は、なりけれ。

四、たふさきものは、はらからなるかな。

したしきものこそ、はらからなりけれ。

○夜 學

一、軒ばの柳に、月かたふきて。

書よむこもしび、影またたけり。

二、しづまりはてにし、ちまたのかなた。

はるかにきこゆる、遠吠のこゑ。

三、今宵もいつしか、一時をすぎぬ。

この一まきだに、まだよみはてず。

○四季のあはれ

一、花さく、春のやま。

梢より、ほのぐ、しらめる、あけぼの。

寫 眞



一.ユ カ シ キ ホ モ ロ - サ ヤ ケ キ コ ロ - ネ -
 二.わ が ふ る さ と は - ら さ と の が な - た -
 三.イ マ コ ノ カ ム ニ - ム カ ヘ マ ヤ が - テ -
 四.う れ し の が た や - こ の が た こ そ - は -



タ ダ ミ ル ゴ ト ク キ カ コ コ チ セ リ -
 い ほ へ の く も は た ら ち へ だ つ れ ど -
 テ ナ ト リ カ み シ ア フ コ コ チ シ ヌ -
 白 け くれ さ ら め わ が ま ど の と も -

鳴 な たつ 秋 あき の 澤 さわ。

芦 あし 間 ま より、 やうく、 くれゆく 夕 ゆふ ぐれ。」

ああ、 なにごか、 ああ、 うたはん。

ああ、 なにごか、 うたはん。

二、 ふみよむ、 なつのつき。

をすの外 と に、 そよく、 ふきくる 朝 あさ 風 かぜ。」

筆 ふで ころ、 冬 ふゆ のまご。

笹 ささ の葉 は に、 さらく、 ふりくるはつゆき。」

ああ、 いかにか、 ああ、 いふべき。

ああ、 いかにか、 いふべき。

兄 弟



一. ロガチチ ハーハガム クロチロ カーチーシワ
 二. わがはら かーらーもまたちちは はーらーりむ
 三. サテコソ ローレハヤ がテモハ ラーカーラハ
 四. たふとき もーのーははらからなるーかーなし

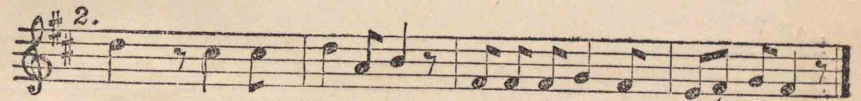


ガミハヤ ガーテモロ がハラカ ラーノミ
 くるなわ かーちーてう まれしみ なーれーば
 ラカラヤ ガーテモチ チハハナ リーケーレ
 たしきも のーこーそはらからなりーけーれ

花 紅 葉



一. エキテミバヤ ナケル ヤマノサケラノーハナ
 二. いざやおもふ どちよ ときはたがひやーすし
 三. エキテメテン ニホフ ノベノモミサノーイロ
 四. いざやおぼしたてよ ときはひとをまーたす



サ モ ロ トモニ ソテツレテ イーザヤ
 さ あ め がぜに うつろはぬ ひーまに
 サ コ レ カレテ イザサヒテ イーザヤ
 さ つ 伊 しもに ちりをめぬ ほーどに

四季のあはれ

1.

一ノ サノ ハルノ ヤ マ コズエ ヨリ
二ふ み い し なの つ き なすの と に

ホ ノ ヤ ノ ソ ラー メ ル ア ケー ポ ノー
そ い ぞ い ふ きー くる あ さー か ぜー

2.

シ ギ ヲ ツ ア キ ノ サ ハ ア シー マ ヨリ
ふ て と ろ ふ ゆ の ま ど さ らー の は に

ヤ ヲ ヲ ヲ ヲ レー ユ ク ユ フー ガ レー
さ ら さ ら ふ りー くる は つー ゆ きー

3.

ア ア ナニトカ ア ア ウタハン
あ あ いかにか あ あ いふべき

ア ア ナニトカ ウタハン
あ あ いかにか いふべき

夜 學

1.

一ノ キハ ノヤ ナギニ ツ キカダア キテ
二し つ まり は て に し ち また の か な た
三コ ヨヒモイ ツシカイ チツチス キ

2.

フ ミヨ Δ ト モソビカー ゲマタタケリ
ほ るかに さ こゆー る とー ほぼえの ら む
コ ノヒトマキダニ マー ダヨミハテ

明治三十四年五月十一日印
明治三十四年五月十五日發
大正十三年三月七日廿九版發行

不許
複製



發行所

東京市芝區松本町四十四番地
會社 共益商社書店

【電話高輪四〇五七 振貯東一五八〇】

編者

東京市神田區錦町三丁目拾壹番地
山田源一郎

發行所

東京市芝區松本町四十四番地
會社 共益商社書店

印刷者

東京市芝區愛宕町三丁目二番地
代表者 白井保男
村橋圭二

印刷所

東京市芝區愛宕町三丁目二番地
東洋印刷株式會社

女學唱歌卷一 奧附
定價金七拾錢



1907.7.17



広島大学図書

0130449458

